

「話し手の思いに共感しながら聞き、コミュニケーションを楽しむ」姿

単元名 「行ってみたい国を紹介しよう」【4／4時】
(教材名 Hi, friends! 2
Lesson 5 Let's go to Italy.)

本時の目標 自分が行ってみたい国の名所や名物、有名人などについて紹介し合う活動を通して、自分の思いが相手に伝わるように話したり、積極的に友達の発表を聞いたりしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

本時の授業について

前時までに子どもは、チャンツやゲームを通して、国の名前や行ってみたい国を尋ねたり答えたりする表現等に慣れ親しんできました。また、自分が行ってみたい国について、図書館アドバイザーが用意した資料(ガイドブック等)を休み時間に見たり、家でインターネットを使って調べたりしてきました。

本時は、自分の行ってみたい国についてグループの友達と伝え合うことを楽しむ時間です。まず担任の山田先生が、「相手にはっきり伝わるように行きたい国を紹介しよう。行ってみたい国が増えるように積極的に友達の発表を聞こう。」と投げ掛けました。その後、子どもは、チャンツやゲームを通して、本時で使う表現に慣れ親しみました。さらに、山田先生とALTのジョン先生のデモンストレーションを見て、主活動のイメージをつかむとともに、聞く側としてどんな心構えで聞いたらよいか確認しました。グループに分かれての活動では、写真等を示しながら、自分の行きたい国やそこでやりたいことなどを伝え合いました。

コミュニケーションの楽しさが実感できる関わり合い



山田先生は、話し手を育てるには、聞き手を育てることが大切であると考えています。よき聞き手とは、「共感しながら聞く」ことができる姿と捉え、指導をしてきました。

前時までに、「Beautiful!」や「Nice country!」等の感想を伝える表現に慣れ親しむ活動を入れ、本時の主活動のデモンストレーションの際にALTの話に共感しながら聞く姿を見せました。

これらの手立てがよき聞き手を育てるとともに、子ども同士の認め合いにつながり、コミュニケーションが楽しく価値のあるものになっていきました。



行ってみたい国を紹介するときに、夏美さんは相手の目を見て話したり、写真を指で示したりと、聞く人に言いたいことがはっきり伝わるよう工夫しました。聞き手の子どもも、簡単な言葉で感想を述べるなど、反応をしながら聞きました。日頃使い慣れない英語を用いてのコミュニケーションですが、話す相手や聞く相手を意識した活動を行うことで、子どもはコミュニケーションの楽しさを実感していきました。

コミュニケーションへの意欲につながる振り返り



友達の発表を聞いて、行きたい国が増えた人はいますか。

涼子さんが紹介したタイに行きたい。パタヤビーチがきれいだった。

純也さんが言っていたアメリカのハンバーガーがものすごくおいしそう。



授業の終末で、子どもは、友達と英語を使って関わる中で新たに魅力を感じた国について発表していきました。友達に伝えることができた喜びと友達に共感してもらった喜びが、コミュニケーションを楽しむことができたという成功体験となりました。振り返りカードを書く際に、山田先生は「友達にはっきり伝わるように紹介したり、反応しながら友達の発表を聞いたりすることができましたか」と振り返りの視点を示しました。子どもの振り返りカードからは、聞き手として共感しながら聞こうとしたことが分かります。また、話し手として聞き手に後押しされながら自信を持って伝えようとしたことも分かります。このような振り返りを行うことで、子どもは、自分や友達のよさに気付き、自己肯定感を高め、新たなコミュニケーションへの意欲を持ちました。

～振り返りカードから～

本の写真を用いて自分の行きたい国のことを、より分かりやすく伝えられた。ほかの人の発表も聞いて、行きたい国が増えた。

自分が発表する国・食べ物・場所をわかりやすく伝えることができた。ビューティフルデリシャスなどと発言出来た。

友達から「アット」や「エクゼレント」なども言ってくれて、うれしかった。私の発表は大きな声ではっきりとした声でできた。

「目標に対する自らの成長を実感しながら、英語での即時的な対話を楽しむ」姿

単元名 「お気に入りの有名人を紹介し合おう」【6／7時】
本時の目標 お気に入りの有名人について、互いに質問し合ったりつなぎ言葉を用いたりするなど、いろいろな工夫をして、対話を継続させることができる。(外国語表現の能力) <話すこと(エ)>

学習指導要領の指導事項「話すこと(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」を根拠として、本時の付けたい力を押さえてあります。

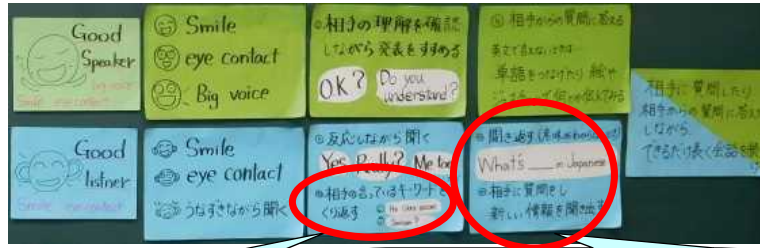
本時の授業について

本単元は、子どもがお気に入りの有名人を紹介し合うことを通して、即時的に話せるようになることが目標です。そのために、福山先生は単元を通して、相手の言葉に反応したり、質問に答えたりする「1分間チャット」の帯活動を行いました。また、言語材料について理解し、練習する場面では、教科書本文をアレンジして家族を紹介する活動や身近な友達について簡単に紹介する活動を行いました。

本時の主活動であるコミュニケーション活動では、ペアを変えて5回の対話に挑戦する機会を保障しました。それぞれのペアでの対話後、短時間で互いのよさや改善点について確認し合う場面を設定しました。次第に子どもは、自分の「対話を継続させるための工夫」に気付き、一方的な紹介から相手を巻き込む双方向の対話に改善させ、対話を継続させることができるようになりました。

子ども自身が、「どうしたら対話を続けることができるかな?」「こうしたらどうかな?」「次はこうしてみよう!」「うまいっただぞ!」と、主体的に学びながら、即時的な対話を楽しむ授業でした。

対話を継続させるための工夫



相手が言ったキーワードを繰り返すとよかったよね。

分からない言葉を聞き返したり、質問したりしないと話がすぐ終わっちゃうし、相手の話もよく分からないまま終わっちゃうよね。

子どもが、即時的な対話を継続させていくためには、互いに質問し合ったりつなぎ言葉を用いたりするなど、様々な工夫が必要になります。「1分間チャット」の帯活動や言語材料について練習する活動を通して、子どもは少しずつ工夫をして、対話を継続させることができるようになります。

福山先生は、本時の主活動であるコミュニケーション活動に入る前に、「対話を継続させるための工夫」について確認をしました。子どもはその工夫を意識し、自信を持って活動に取り組むことができました。

成功体験につながる主体的な学び

最初のペア活動後の亮太さんの評価シート

項目	達成	ペア
1 相手の話を聴いて、聞こえる声で話した	◎	◎
2 笑顔で、相手の目をみて、うなづきながら聞いた	◎	◎
3 相手の言葉に反応したり、発音しだすことができた	◎	◎
4 新しい情報を追加したり、相手に質問したりして、1分間対話を続けることができた	×	◎
5 3人対話活動(グループワーク)で、話し合いを促して、相手と対話するようになった	◎	◎



最初のペア活動を終えて

思っていたより対話が続かなかったな...
もう少し相手に質問したいけれど...

3回目のペア活動で

This is Shoko. She likes "ebi-fry".
I like "ebi-fry", too. Do you like it?

そうか！相手も好きか質問するのいいんだ！



気付き

仲間の発言から
アドバイスから
教師の価値付けから

最後のペア活動後の亮太さんの評価シート

項目	達成	ペア
1 相手の話を聴いて、聞こえる声で話した	◎	◎
2 笑顔で、相手の目をみて、うなづきながら聞いた	◎	◎
3 相手の言葉に反応したり、発音しだすことができた	◎	◎
4 新しい情報を追加したり、相手に質問したりして、1分間対話を続けることができた	◎	◎
5 3人対話活動(グループワーク)で、話し合いを促して、相手と対話するようになった	◎	◎



Yes, I do!
I like it very much.

最後のペア活動で

This is Nobita. He likes sleeping.
I like sleeping, too. Do you like sleeping?

Yes, I do. I like sleeping...long...every day.
Does Nobita like sleeping long?

Yes, he does!



改善

亮太さんの振り返り

はじめ、緊張してても40秒くらいだけ話して、話していくうちに1分もこえられた。質問や反応もうまくつなぐことができた。



最初に対話をしたペアと、もう一度最後に対話をする
ことで、互いの成長を実感することができます。亮太さんの自己評価項目「新しい情報を付け加えたり、相手に質問をしたりして、1分間対話を続けることができた」は、最初のペア活動では「×」でした。しかし、最後のペア活動では「◎」に変わっています。これは、それまでの仲間との対話を通して、互いのよさを価値付け合ったり、アドバイスし合ったりして、自分の対話をよりよいものに改善する気づきの機会があったからです。
このように、子どもに「気づき」を促し、「改善」につなげる機会とその時間を確保することで、亮太さんの成功体験につながる主体的な学びを促すことができました。